

# Program

見に行こう!

フィールドワーク・作品鑑賞

対話しよう!

作品についてのディスカッション・批評

話を聞こう!

講義

**1** 10/18 (火) 19:00-21:00 場所: 財団7階会議室

この講義だけの参加も可能!

話を聞こう! 「福岡のアートと社会」

(ゲスト) 森山淳子 (聞き手) 大澤寅雄, 長津結一郎

福岡で重い病気や障がいのある人たちにむけた独自の様々なイベントを企画しているニコちゃんの会代表の森山淳子さんから、福岡のアートと社会について聞きましょう。



(ゲスト) 森山淳子  
認定NPO法人ニコちゃんの会 代表

「どんなに重い病気や障がいがあっても心豊かに人生を生き抜く」をコンセプトに関わる人が安心して過ごせる日常の支援と共に様々なアートをあらゆる人が見て・触れて・感じて・やってみる「すごい演劇アートプロジェクト」などを実施。



(聞き手) 大澤寅雄  
文化生態観察/ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室

(株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室准主任研究員、NPO法人アートNPOリンク理事、九州大学ソーシャルアートラボ・アドバイザー。共著=「これからのアートマネジメント」『ソーシャル・シェア』への道』『文化からの復興 市民と震災といわきアリオス』。



(聞き手) 長津結一郎  
九州大学大学院芸術工学研究院助教

専門はアートマネジメント。アートと社会に関する実践と理論の往還を通じた研究を行っている。共著に「アートプロジェクト:芸術と共創する社会」、「障がいのある人の創作活動:実践の現場から」等。

**5** 12/15 (木) 19:00-21:00 場所: 福岡アジア美術館 あじびホール

この映画上映会+トークショーだけの参加も可能!

見に行こう! 映画『記憶との対話—マイノリティ・トラベル、10年目の検証』—対話しよう!

上映会+トークショー

(ゲスト) 縦山智子, 佐々木誠 (聞き手) 大澤寅雄

「〈健全〉と〈障がい〉、〈マイノリティ〉と〈マジョリティ〉の境界線に問いを投げかけた問題作『東京境界線紀行「ななつの大罪」』舞台上演から10年が経ち、今一度その意味を問い直すドキュメンタリー映画が完成しました。本セミナーのために福岡で初となる上映会を開催します。映画製作実行委員会の代表である縦山智子さんと映画監督の佐々木誠さんにお越しいただき、映画上映後にトークショーを行います。



(ゲスト) 縦山智子  
作曲家

スタンフォード大学にて文化心理学と作曲を二重専攻し卒業。世界各地でサイト・スペシフィックなプロジェクトを展開し、多様なマイノリティのコミュニティや異分野の専門家等との協働を通して現代の民俗音楽を探求している。撮影:北原徹



(ゲスト) 佐々木誠  
監督

1975年生まれ。主に音楽PV、TV番組などの演出、構成など。映画作品に『Fragment』(2006)『INNERVISION』(2013)『マイノリティとセックスに関する、極私的恋愛映画』(2015)がある。

**2** 10/23 (日) 10:30~15:30 場所: Studio Kura, 糸島市二丈周辺

見に行こう! 糸島国際芸術祭 2016「糸島芸農」—対話しよう!

(ゲスト) 藤浩志, 松崎宏史

毎年秋に、自然豊かな糸島二丈で開催される芸術祭。今年のテーマは“発酵する地平”。国内外の20数名のアーティストによる作品が糸島の大地に展開されます。現地で作品を見て、出展アーティストの藤浩志さんと糸島芸農プロジェクト実行委員長の松崎宏史さんからお話を聞きましょう。



(ゲスト) 藤浩志  
美術作家 秋田公立美術大学教授

京都市立芸術大学大学院修了。パプアニューギニア国立芸術学校講師、都市計画事務所、藤浩志企画制作室、十和田市現代美術館館長勤務を経て秋田公立美術大学教授。国内外のアートプロジェクト、展覧会に出品多数。http://gecco.jp



(ゲスト) 松崎宏史  
美術家、Studio Kura 代表取締役社長、糸島芸農プロジェクト実行委員長

1979年福岡県糸島市生まれ。広島市立大学芸術学部油絵科卒業後、ドイツハノーバー専科大学で学ぶ。2009年アートカンパニー(株) Studio Kuraを設立。糸島から世界へ文化発信をモットーにアーティスト・イン・レジデンス、美術教育、美術作品制作事業を手がける。



10/28 (金) 19:00-21:00 場所: 財団7階会議室

対話しよう!

(ゲスト) 松崎宏史, 河合拓始 (聞き手) 花田伸一

糸島芸農で見た作品やプロジェクト自体について、糸島芸農プロジェクト実行委員長の松崎宏史さん、出展作家の河合拓始さんと対話しましょう。



(ゲスト) 河合拓始  
音楽家 (ピアニスト、作曲家)  
現代音楽と即興音楽を中心にピアノ/鍵盤ハーモニカ/トイピアノの演奏、作曲を行う。1963年神戸生まれ、1991年東京芸大大学院修了。東京で長年活動後、2012年から福岡県糸島市在住。九州・関西・東京・欧米で演奏している。http://www.sepia.dti.ne.jp/kawai/



(聞き手) 花田伸一  
キュレーター/佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授  
1972年福岡市生。北九州市立美術館学芸員、フリーランスを経て2016年より現職。主な企画に「6th北九州ビエンナーレ〜ことのはじまり」「釜山ビエンナーレ2014特別展」「ちくごアートファーム計画」他。

## はぎまのまなざし塾

**7** 2017/1/30 (月) 19:00-21:00 場所: ゆめアール大橋

見に行こう! 障がいのある人たちによる演劇「Lifemap」—対話しよう!

練習見学

(公財)福岡市文化芸術振興財団は、障がいのある人たちの芸術活動を通じ、社会におけるさまざまな既成の“価値”や“枠”を捉え直す企画「Lifemap」を行っています。10年目の開催を迎える今年度は、4回目となる舞台公演を制作・発表します。その練習を見に行き、舞台作品が作られる現場を見学しましょう。

公演の本番は2017年2月18日(土)、19日(日)です



2015年度公演の様子 撮影:泉山朗士

**4** 11/25 (金) 19:00-21:00 場所: 財団7階会議室

この講義だけの参加も可能!

話を聞こう! 「アートと災害」

(ゲスト) 古賀弥生 (コメンテーター) 清水チナツ (聞き手) 宮本初音

2005年福岡県西方沖地震後、全島避難となった玄界島の小学校でアーティストとともに学習発表会のサポートを行った古賀弥生さんのお話を聞きます。2011年の東日本大震災、今年の熊本地震。災害とアートとはどのような関係を築いていけばいいのでしょうか。



(ゲスト) 古賀弥生  
アートサポートふくおか代表/活水女子大学教授  
2002年1月、「アートサポートふくおか」を設立し代表に就任。「誰もが芸術文化を楽しめる環境づくり」をミッションに、芸術体験の機会拡大、芸術と社会をつなぐ人材養成等に取組む。博士(文化政策学・京都橋大学)。



(コメンテーター) 清水チナツ  
せんだいメディアテーク学芸員  
1983年北九州生まれ、仙台在住。2011年より、せんだいメディアテーク学芸員。市民(在野の学習者)とともに展覧会企画制作/アーカイブセンター運営/フリーペーパーや書籍の編集/対話の場づくり/伝承民話の記録活動にとりくんでいる。NPO remoメンバー。



(聞き手) 宮本初音  
アートコーディネーター、ART BASE 88 代表  
1962年生、福岡在住。1980年代より街なかのアートプロジェクト等を企画。独立型アートセンター「ART BASE 88」代表。WATAGATA Arts Network、「筑後アート往来」等が進行中。http://artbase88.wordpress.com/

2017/2/2 (木) 19:00-21:00 場所: 財団7階会議室

対話しよう!

(ゲスト) 樋口龍二 (聞き手) 笠井優

Lifemapの練習を見学して考えたこと、障がいと演劇、アートのことをNPO法人まるの樋口龍二さんと対話しましょう。



(ゲスト) 樋口龍二  
NPO 法人まる  
2007年法人設立と同時に代表理事就任。東京・奈良などの他団体と共同し九州/福岡を中心に障がいのある人達の表現を社会にアウトプットする環境を構築中。2015年に「株式会社ふくしごと」を地元企業やクリエイターたちと共同設立。http://marulab.org/



(聞き手) 笠井優  
三葎地所アルティアム ディレクター  
1986年徳島生まれ。2010年九州大学芸術工学府修士課程修了。2012年京都造形芸術大学通信教育部博物館学芸員資格過程修了。2009年よりアルティアムにて展覧会企画・運営に携わる。九州大学芸術工学部非常勤講師。

**9** 2017/3/4 (土) 19:00-21:00

対話しよう! 報告会

本講座で学んだことをもとに、これからの福岡に求められるアートと社会の関わり方について議論し、提案をしてもらいます。詳細は初回の講義で発表します。

求む。  
アートと社会を結ぶ  
通訳さん!

「はぎまのまなざし塾」では、アートと社会のはぎまに立って、その関係性に注目します。近年、福岡でも福祉、医療、地域再生など社会のさまざまな分野がアートの現場になっています。そんな今少し立ち止まってアートと社会の関係について考えてみませんか? アートが介入することによって社会はどう変化するのでしょうか? 社会に介入することでアートになが起るのでしょうか? そもそもアートって一体なんのためにあるのでしょうか? これらの間に明確な答えはありません。それでもアートが好き、アートをマネジメントしたい、これからのアートを考えたいというあなた。アートと社会のはぎまから見えてくるものを一緒に探りませんか? 本講座では、福岡でのアートの現場を見て、アーティストや仕掛人の話を聞き、アートと社会の両側の視点から評論・対話します。アートマネージャーとして作品やアーティストのことを一般の人に伝える=通訳するための言葉を磨き、社会とアートの関係について考えましょう。



# Presentation